

秋川ファーマーズセンターの管理運営の状況について

1 公の施設の概要について

施設の概要	名称	秋川ファーマーズセンター
	所在地	あきる野市二宮 8 1 1 番地
	所管課	環境経済部農林課農政係（内線） 2 5 2 1
指定管理者	名称	秋川農業協同組合
	所在地	あきる野市秋川三丁目 1 番地 1
	業務内容	①市内農業者が生産した良質で新鮮な農畜産物等の販売業務 ②農畜産物等の販売促進に関する業務 ③農畜産物等の計画的生産に関する業務 ④地域産業との相互協力による販売業務 ⑤農業従事者の相談に関する業務 ⑥市民農園の管理に関する業務 ⑦センターの維持管理に関する業務 ⑧その他市長が必要と認める業務
ホームページ URL	http://www.ja-akigawa.or.jp/shiten/tenpo/fc.htm	
指定期間	平成 1 8 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 3 年 3 月 3 1 日	

2 施設の利用状況等について

項目	(平成 1 7 年度)	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度
来客者数 (人)	345,486	351,937	348,649
前年度比 (人)		6,451	△3,288
前年度比 (%)		101.9	99.1
売上合計 (千円)	522,969	538,624	534,369
前年度比 (千円)		15,655	△4,255
前年度比 (%)		103.0	99.2

3 施設の収支状況について

(単位：千円)

項目		平成 1 8 年度	平成 1 9 年度
収 入	直売売上げ	318,279	321,807
	その他売上げ	214,566	207,281
	その他の収入	5,779	5,281
	計	538,624	534,369
支 出	事業直接経費	474,319	471,519
	管理費	55,337	54,294
	その他	2,636	3,016
	計	532,292	528,829
収支合計		6,332	5,540

4 利用者からの苦情・意見等とその対応状況について

意見等の概要	対応状況
生産者の品物の不良に対する苦情	<ul style="list-style-type: none"> 現金の返金又は品物を交換する 苦情の内容を生産者へ連絡する。 生産者が利用者へ苦情の説明をする。
切花・植木等の名前・花の色などの問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> 品物に名前や色の表示を徹底するよう生産者へ指導する。
レシピを置いて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 旬の野菜のレシピを作成し、商品に添付する。
午後になると品薄になる。	<ul style="list-style-type: none"> メール配信システムにより、売上げ状況を生産者に情報提供している。

5 利用者満足度の把握について

把握方法	アンケート用紙を置き、回収箱に投函してもらう形で、意見や満足度等の把握に努めている。
調査結果	内容は、品質や品薄に対する苦情・要望、またはレジの対応や生産者による丁寧な説明を受け好印象であった等、様々な意見が投函されている。

6 利用者サービスの向上又は経費の削減等に向けた取組について（実績・予定、効果等）

取組の内容	効果等
旬の野菜レシピを作成している。	売上の向上に結びつく。
ダンボールを再利用し、運搬用に提供している。	資源のリサイクル、レジ袋の削減
今後の課題 買い物袋の持参を呼びかける。	レジ袋の削減

7 総合評価

指定管理者の評価

(次年度以降における業務改善につなげていくための総括又は自己評価)

- ・ 生産者（会員）の増員を図る。後継者や担い手不足への対応
- ・ POSシステムの導入により売上集計・販売数において成果がある。
- ・ 建物・設備の老朽化が進み、近年は修繕に要する経費が発生している。このため、建替えについて研究を始める必要がある。
- ・ 「新鮮・安心・安全」な農畜産物の提供と、買いやすい、又来ようという気を起こさせる店となるような運営を目指す。

設置者（所管課）の評価

(次年度以降における業務改善につなげていくための指定管理者の管理に係る括的な評価)

当該施設については、平成5年のオープン当初から秋川農協に委託し運営している。売上げについては、オープンからこれまで着実に伸びている状況である。

農畜産物の品質の向上や来客者対応については、農協のノウハウにより、適切に対応している。また、会員が生産していない果実について、産地直送を取り入れる等の集客策を講じ運営改善に取り組んでいる。

今後も、安心安全な生産者の顔の見える農畜産物を安定して供給できるよう、会員の確保及び指導・相談や運営改善に積極的に取り組み、地産地消を推進するあきる野農業の拠点施設として、売上げ及び来客数の増加に結び付けてほしい。